



沖縄県の学童疎開

1944(昭和19)年7月19日、各国民学校に学童集団疎開の指示が出され、10月末までに6千名余の児童が学校単位で疎開しました。疎開先は宮崎県・熊本県・大分県の3県で、学校毎に各県へ割り当てられました。

ぎのわんの学童疎開

宜野湾の学童疎開は、1944年8月末疎開船「対馬丸」の沈没事件から一週間後に始まりました。宜野湾からは、宜野湾・普天間国民学校



福瀬国民学校(宮崎県)の校庭から耳川を見る(1946年)



一緒に疎開した高等科の生徒(1946年)

【問い合わせ】市立博物館 ☎ 870-9317

校から合同で52名、嘉数国民学校から32名の児童が、疎開船「伏見丸」で九州に渡っています。割り当てられたのは宮崎県東臼杵郡東郷村(現日向市)で、主に学校の裁縫室(畳敷きだった)などに宿泊し、地元の子どもたちと一緒に授業を受けました。

疎開地の東郷村は山間部で寒さも厳しく、子どもたちは食糧不足や親元を離れて暮らす寂しさの中、1946(昭和21)年8月に引き揚げが始まるまでの約2年間で、異郷で過ごしました。

対象外のはずの高等科生

学童疎開の対象は、初等科(現在の小学校)3年から6年までの男子が原則でしたが、実際には対象外のはずの女子や、高等科生(現在の中学生)も多くいました。学童疎開には児童の他に、教員と世話人(寮母や作業員)数名も同行しており、高等科生は世話人として同行したと思われれます。



野嵩ステイバナビラ

石畳道の復元を目指して

「歴史・文化遺産を歩く」其の57では、野嵩石畳道の発掘調査についてお伝えしました。残念ながら、宅地造成の影響で壊されている部分もありましたが、近世に整備された当時のものと考えられる石畳が、想定以上に残っていることが確認できました。特に坂下部分では、石畳が戦後の造成土に埋もれた状態で確認されており、石畳がある程度の広がりをもって残されていると考えられます。そのため、地域の歴史を今に伝える貴重な文化財として、市の史跡に追加指定することが決まりました。

「野嵩石畳道」は行政上の名前ですが、地元では護佐丸・阿麻和利の乱(1458年)の逸話にちなんで「※ステイバナビラ(袖離坂)」と呼ばれています。この地名を後世に残すため、今回、史跡名を「野嵩ステイバナビラ石畳道」に変更しました。言いにくい名前ですが、ぜひ覚えてください。

野嵩ステイバナビラ石畳道では、保存整備工事を計画しており、往年の石畳道を復元させたいと考えています。そのため、これまで行った発掘調査の結果の他に、石畳道を生活道として利用していた地元の方々にご協力を頂き、様々なお話を伺いました。現在、みなさんからお聞きした情報を基にイメージ図を制作しており、これも石畳道復元の基礎資料として活用する予定です。

教育委員会では、引き続き野嵩ステイバナビラ石畳道の情報を募集しています。特に、1970年代以前の思い出や写真、絵画などを探しています。お心当たりのある方は、文化課まで情報をお寄せください。宜しく願います。

【問い合わせ】

文化課 ☎ 893-4430



▲動画「野嵩ステイバナビラ石畳道発掘調査速報Vol.3」YouTubeの宜野湾市公式アカウントで、野嵩ステイバナビラ石畳道の発掘調査の様子や、地元の方々からの聞き取りの様子などを公開しています。
※「ステイバナビラ」の由来などは動画をご視聴ください。